



柏原小だより

家庭・地域とともに関わりを通し

温かい心と自信・意欲をはぐくむ

平成27年12月24日
狹山市立柏原小学校

臨時号

学習状況調査の報告

家庭数

校長 松澤 忠 明

今年度実施された、全国学力学習状況調査並びに埼玉県学力学習状況調査の結果について報告いたします。全国学力学習状況調査は、対象学年が第6年生です。調査内容は5学年までの国語・算数・理科の学習の達成状況と生活や学習に関する調査からなります。今年度より新たな取組として埼玉県学力学習状況調査も実施されました。調査対象学年は4・5・6年生で調査対象教科は、国語、算数です。併せて児童の学習や生活に関する調査も行いました。

1 全国学力学習状況調査から（実施対象6学年）

算数科においては、授業における課題解決活動やまとめにおける表現活動を定着させる取り組みにより、一定の成果が現れている。しかしながら、国語科においては、話し合う力、聞く力、表現力、コミュニケーション能力等に課題が見られる。また、自分の考えを整理して、順序だてて話すことが苦手の児童が多い。そこで、今年度は、学校課題研究では国語科を中心に「自分の思いや考えを生き生きと自信を持って伝え合う児童の育成」を主題として研究に取り組んでいる。

（1）本校教育の現状

全国平均を100とすると、算数は、全国平均を越えているが国語、理科の得点が低い。

【観点別：国語】

A問題では、書くことが全国平均に比べて8%ほど正答率が低く、B問題でも同様の傾向がある。理由や事例を挙げて文章を書く力が不足している。

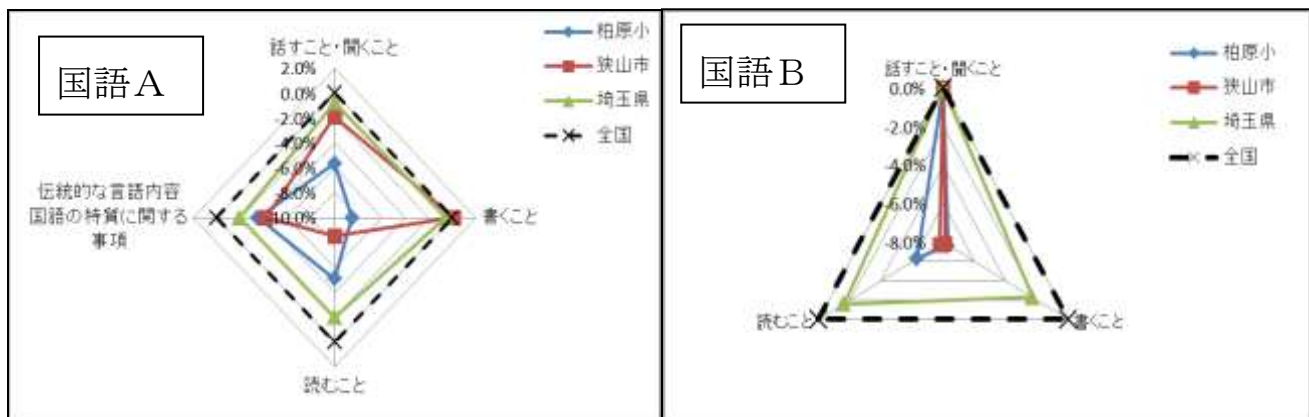
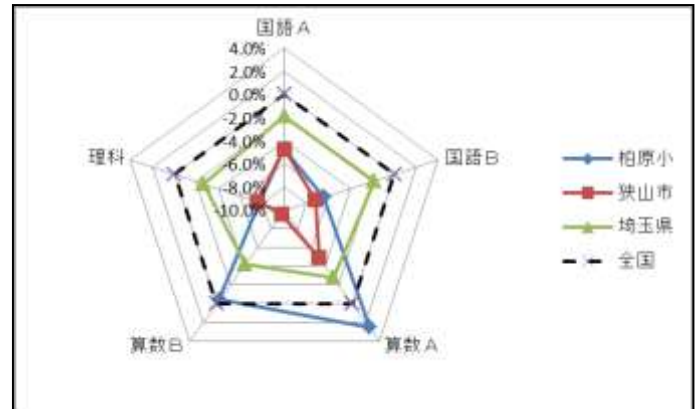
【観点別：算数】

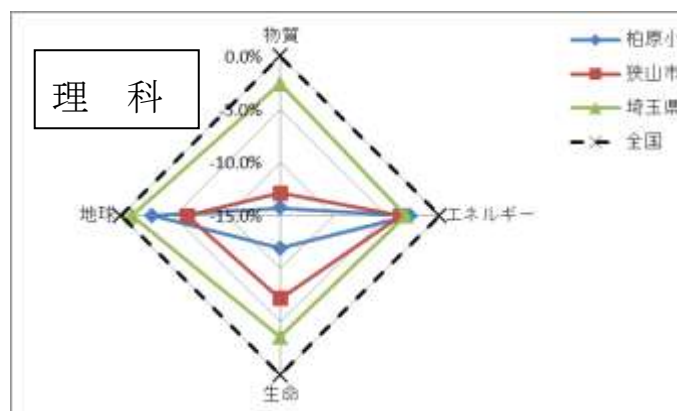
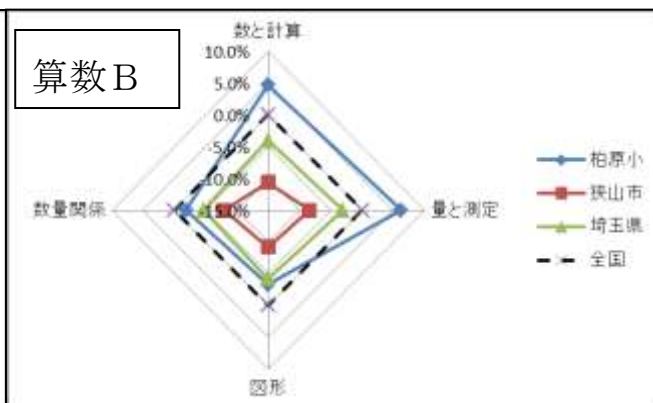
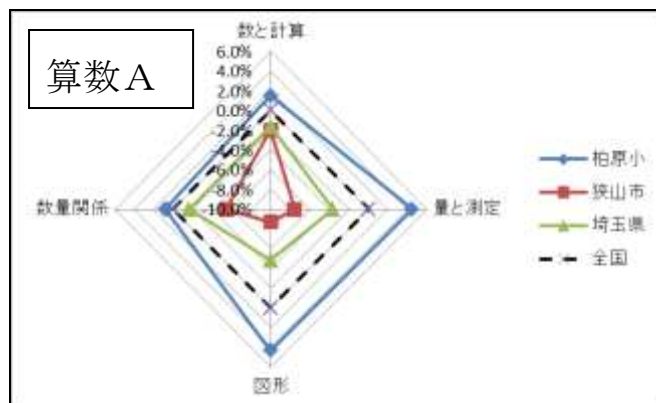
A問題では、どの観点でも全国平均を上回ることができている。基礎的な事項の定着が図られていると言える。

B問題では、全国平均を数量関係、図形でやや下回ってはいるが、他の領域では上回っている。B問題は、ある考えに沿って問題を解決する力があるかについての設問に対応できていない。様々な考え方をを用いて問題が解決できる力の定着が望まれる。

【観点別：理科】

理科の問題では、物質と生命の分野の正答率が低い。活用する力より基礎的な知識や体験の定着が図られていないと考えられる。教科書で教えるのではなく、実験観察を大切にした授業の充実が望まれる。





(2) 埼玉県学習状況調査から（調査対象 4・5・6 年）

県の学習状況調査では、正答率は県平均と比べると国語はどの学年も 1～2%ほど低く、算数では、学年が上がるにつれ 1%ほど低いものが 2%ほど高くなっていく。

		4年			5年			6年		
		柏原小	狭山市	埼玉県	柏原小	狭山市	埼玉県	柏原小	狭山市	埼玉県
領 域 別 正 答 率	国語平均正答率	60.8	60	62	71.4	72.2	72.8	67.5	67.3	69
	話すこと・聞くこと書くこと	42.6	42.6	47.2	52	64.8	68.6	58.7	58.5	63.8
	読むこと	48.1	50.5	53.5	69.5	73.2	73.7	71.8	72.1	73.9
	伝統的な言語内容 国語の特質に関する事項	70.7	68.2	69.1	75.7	73.1	73.1	67.2	66.4	67.2
平 均 観 点 別 正 答 率	関心意欲態度									
	話す聞く能力	53	52	56	62.7	75.1	78.3	74.3	71.1	75.6
	書く能力	21.1	23.8	29.6	30.7	44.1	49.1	29.2	33.4	40.2
	読む能力	48.1	50.5	53.5	69.5	73.2	73.7	71.8	72.1	73.9
言語についての知識理解技能		70.7	68.2	69.1	75.7	73.1	73.1	67.2	66.4	67.2

		4年			5年			6年		
		柏原小	狭山市	埼玉県	柏原小	狭山市	埼玉県	柏原小	狭山市	埼玉県
領 域 別 正 答 率	算数平均正答率	65.6	66.3	67.2	67.5	67.2	66.5	61.3	59.3	59.3
	数と計算	66.2	67.2	68.4	77.1	74.8	73.5	67.9	66.1	66.1
	量と測定	59.2	62.9	63.9	49.3	51	53.3	53.3	51.7	52.5
	図形	53.6	55.3	55.3	61.1	61	58.3	63.5	60.5	59.4
	数量関係	81.9	77.9	78.2	67.2	70.2	69.5	53.5	51.2	51
平 均 観 点 別 正 答 率	関心意欲態度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	数学的思考方	33	36.6	37.3	43.1	41.5	39.8	34.4	32.5	33.8
	数量や図形についての技能	77.2	77.8	79.6	74.1	74.4	73.4	71	69.6	69
	数量や図形についての知識理解	67.6	67.6	67.9	68.2	67.7	67.3	61.6	59.2	59.2

領域や観点別に見ていくと

【国語】

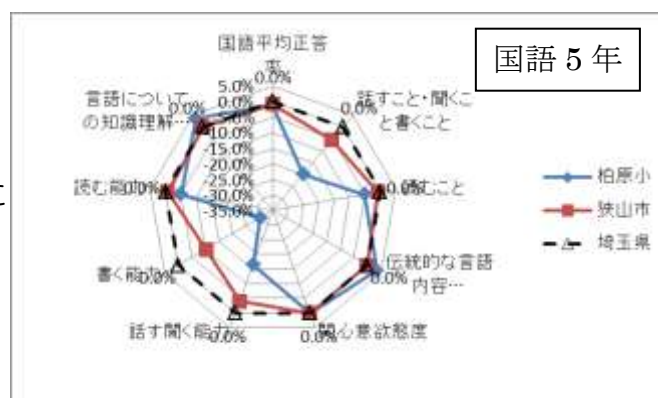
＜領域別＞

多少高低はあるが、どの学年も領域では話すこと・聞くこと・書くことが低く他の領域はほぼ県平均に近い。

＜観点別＞

同じくどの学年でも「書くこと」に関わる正答率が低い。

【算数】



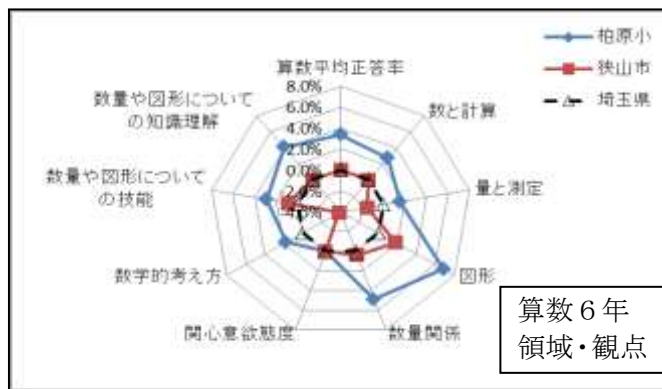
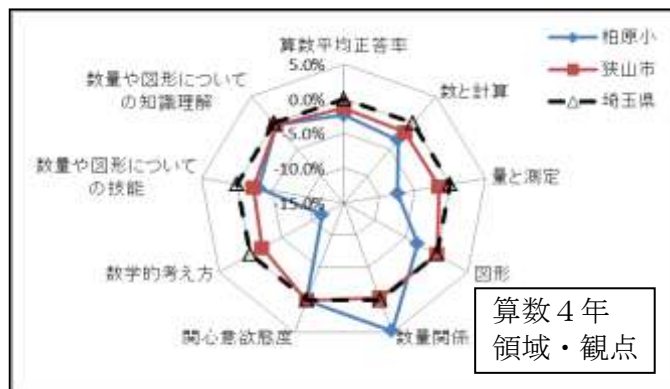
<領域別>

どの学年も概ね県平均に近いが、量と測定の領域が共通して正答率が低い。体験や操作活動が不足している可能性がある。

<観点別>

3年生では、数学的思考方についての取得が十分ではないと言えるが、学年が上がるにつれて改善されていく。

算数では、全体的に県平均を下回っている正答率が、学年が上がるにつれて改善され、5年生の内容ではどの領域でも県の平均を上回るようになってくるのは、少人数指導や日常の取組の成果と考えられる。



2 課題解決に向けて

(1) 言語能力を育てる授業の充実（日々の授業の充実）

「めあて（問題・課題）」と「まとめ」が明確である授業の展開とともに、1時間の授業の流れがわかる板書を行う。また、まとめは自分の言葉で書かせ、説明できるようにさせる。

【現状】 教科、内容によって不十分と考えられる取組も見られる。

- ・めあて、課題とまとめの不整合。
- ・まとめに具体性や本時の学習が十分に生かされていない。などの状況がある。

【解決に向けた取り組み】

- ・全校での取組の中で板書を大切に授業を目指す。

(2) 話し合いや交流場面の意図的設定と工夫

アクティブラーニングの考えを取り入れ、「人数の工夫」「場の工夫」「ツールの工夫」「役割の工夫」「話し合い・交流の流れの統一」等を教材に合わせて設定していく。

【現状】

- ・自信を持って授業中に発言できる児童や発言がしっかりとした文として伝えられている児童が少ない現状がある。
- ・表現したいことをしっかりと伝え、話し合う活動が不十分である授業が見られる。

【解決に向けた取り組み】 アクティブラーニングは、学習活動の一般化、社会をめざしていくものととらえるとともに、現在の言語活動の充実、児童の主体的学習の延長上にあるものととらえ、全く新しいものではなく現状の教育活動、学校課題の解決の延長上にあるという意識を浸透させたい。

- ・今年度校内課題研修で「自分の思いや考えを生き生きと自信を持って伝え合う児童の育成」を課題として取りあげ、①話し合いや交流場面の工夫 ②言語活動の工夫 について取り組んでいる。
- ・表現力や思考力を支える言語活動を深まりのあるものとし、活動を広げていくために考えていることを「言語で表す」授業の浸透を一層すすめる国語研究にする。

(3) 基礎基本の確実な定着（学習習慣の確立）

漢字達成率確認テスト（毎学期末）実施

目標：90点以上の児童の割合・・・1回目で90%以上

算数定着度確認テスト（毎学期末）の実施

目標：80点以上の児童の割合・・・90%以上

【現状】 ・定着度確認テストの状況（合格基準：1・2年は92点、3年以上90点）

国語	時期	1年	2年	3年	4年	5年	6年
H26	第1回	69	82	64	32	79	71
	最終	98	100	98	97	96	100
H27	第1回	81	63	16	57	68	69
	最終	100	89	88	89	100	98

- ・漢字、カタ仮名について調査しているが、問題数が50問であることで個人差が大きい学年では定着度を上げることが難しい。

(合格基準：算数 150 点満点で正答率 1 回目80%、2 回目90%)

算数	時期	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
H26	第 1 回	96%	89	83	88	83	83
	最 終	100	100	98	99	99	100
H27	第 1 回	88	90	89	79	83	77
	最 終	100	92	94	98	100	98

- ・小人数指導教員が 2 回目以降の取組に関わり達成できるように支援を行っている。

【解決に向けた取り組み】

- ・国語については、継続的なドリル学習の充実を進める。
- ・おはようチャレンジの取組をさらに計画的に実施し、担任が定着度を確実に把握し、学年での取組を強化するとともに国語の校内研修の課題として取り上げる。
- ・算数については、サマースクールの取組を強化し、意欲を向上させる取組として家庭学習の充実の項目に挙げる。さらに、小人数指導教員によるサポートを進める。

(4) おはようチャレンジタイム（国・算）の充実

毎週、月・金に、年間を通じた計画的重点的な取り組みを朝の時間に実施する。教育課程に位置付けられた基礎的基本的事項の確実な定着を目指す。

【現状】

(国語) 漢字・カタ仮名の取組を中心に実施。

(算数) 明確な取組計画にもとづいた内容を実施。

【解決に向けた取り組み】

(国語) 校内課題研究に位置付け、言語事項特に「書くこと」に視点を当てた取り組みを計画に取り入れるように準備中。

(算数) 全国、県での課題があった中学年の取り組みの強化と数学的な考え方の領域や思考についての正答率の向上を目指す取り組みを取り入れる。

(5) 家庭学習の充実

家庭学習の量的な充実のために、「柏原小 家庭の学び」(家庭学習の手引)を配布し、各家庭の協力を明確な形で提示し、学校と家庭の学習をつなぐ。さらに、高学年においては、校長との「家庭学習ノート面談」を実施し、各児童に自主的な取り組みを促し、質的な向上を図っていく。

【現状】

- ・家庭での学習取組時間の定着を確実なものとする。

取組時間	0～30	30～60	60～120	120～(分)
5 年生	7. 6%	47. 7	44. 6	4. 6
6 年生	2. 2%	14. 9	50. 0	32. 9

5・6 年生の家庭学習の取組時間

- ・「柏原小 家庭の学び」の配布と家庭の協力要請。
- ・高学年の取組時間で 60 分以上が少ない。

- ・取組内容がドリルを中心としたものが多いため、思考力や表現力が高まったものを増やしたい。

【解決に向けた取り組み】

- ・5、6 年生の学習時間の向上と内容の充実のために校長の面接指導を実施(3 学期に今年度 2 回目を実施予定)
- ・家庭学習ノートの内容の充実させ、60 分を基本とし、内容の充実を進める。

